

2018年3月期3Q 決算説明会 Q&A サマリ

2018年2月7日時点

【FY17 3Q 業績について】

Q 前年同期比で増収増益となった背景を確認したい。

A 受注残が順調に積み上がっている中で、上期で出遅れていた売上を3Qで予定どおりカバーできたと考えている。お客様の投資動向が大きく変わった印象はないが、少しずつ改善傾向にあると考えている。

Q 来期以降を含めた地域別の受注環境について確認したい。

A 北米は大きなプロジェクトの収束期であり、プロジェクトの回復はあるものの、全社への寄与という点では大きな期待はできないと考えている。また、中東は原油価格が60ドル後半に戻っても、お客様の投資が即座に回復する状況にはなく、時間が必要だと考えている。その中で日本、東南アジア、中国の動向が鍵になると考えている。インドは、現在の当社受注規模は非常に小さいものの、政府が石油や石油化学を含めて積極的な投資姿勢を示しているため、時間が掛かりながらも案件は出てきている。

【KBC グループについて】

Q のれん等減損損失計上の背景を確認したい。

A KBC 社の買収は、原油価格が下落した局面であったが、お客様の投資動向は、原油価格の下落に遅れて毎年冷え込んでいった。このような事業環境の変化に加えて、貸倒引当金を計上したことにより、KBC グループの事業計画を見直す必要が発生したためである。

Q 貸倒引当金計上の背景を確認したい。

A 原油価格下落等、事業環境の変化により、海外の大規模なプロジェクトにおいて債権が回収不能となったためである。

Q 減損損失および貸倒引当金の計上が、今後の業績にあたる影響を確認したい。

A 貸倒引当金の計上額を除き、現時点でFY17のKBCグループ年間計画（受注90億円、売上100億円、営業利益9億円）は修正しない。一方で、減損損失の計上により、のれん等の残高が減少したため、連結では、概算で年間10億円程度償却費が減少する見込みである。

【FY17 業績予想について】

Q 4Q 予想が昨年度と比較して減収となっている背景を確認したい。

A 特殊な減収要因は想定していない。受注、売上ともに4,000億円をミニマムターゲットとし、少しでも積み上げていきたい。それによって、今回下方修正した営業利益も確実に達成していきたいと考えている。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解しやすいように部分的に加筆・修正しています。

横河電機株式会社 IR 部
©Yokogawa Electric Corporation